創立60周年で記念式典

300人参加、節目祝う

新金属協会

新金属協会（会長・轟正彦信越半導体常務取締役）は16日、都内の第一ホテル東京で創立60周年記念式典及び祝賀会を開催した。記念式典の前には記念シンポジウムも開かれ、関係省庁や会員企業から約３００人が参集し、節目を祝った。

記念式典の冒頭挨拶で轟会長は「新金属産業は、戦後の材料科学の発展を受け、ユーザー産業と連携しながら部素材の工業的製造法を開発し、要請される機能材料を経済的に供給してきた。このような高機能材料を工業的に供給する能力は世界トップレベルにあるが、今後の内外環境の激しい変化に対応するにはこれらの強みを充分に生かすことが不可欠。材料研究の最前線からもたらされるアイデア、シーズをユーザーニーズにマッチングしていく努力が重要になる。そのための異業種プラットフォームとして協会の場を積極的に活用することも検討していきたい」と述べた。

挨拶する轟会長

記念式典では表彰式も行われ、田村昌三東京大学名誉教授など3人に60周年の特別功労賞が贈られた。

シンポジウムでは今年の日本国際賞を受賞した細野秀雄氏（東京工業大学教授）が「元素戦略と今後の機能材料開発」と題した特別講演を行った。細野氏は「統計では新材料の発見から社会に普及するまで20～30年の時間を要すると言われるが、最近は欧米、中国などでこの期間を短縮しようという取り組みが本格化している。こうした動きに乗り遅れれば将来的に日本を支えている材料・部材の優位性が危うくなる可能性がある」と語った。

このほか、新金属協会の8部会を代表してシリコン部会と希土類部会から業界の現状と今後の展望などについてのプレゼンテーション、「内外環境の変化と新金属産業発展と課題」と題したパネルディスカッションも行われた。